

伝統を受け継ぐ

田原市立伊良湖岬中学校

小野 智史

鷹一つ見付けてうれしいらご崎

かの有名な松尾芭蕉がこう詠んだ伊良湖岬に昭和二十二年、伊良湖岬中学校が誕生して、今年で七十二年が経ちます。そして、本年度を最後に福江中学校と統合します。

全校生徒百一名の本校には、特色ある活動があります。全校生徒を「朱雀・白虎・青龍・玄武」の四つに分けた縦割り班活動です。野外活動や運動会など、本校では縦割り班で行っています。そのおかげで、伝統は先輩から後輩へと自然な形で受け継がれています。

伊良湖岬中学校の伝統の一つに演舞があります。舞の音源はオリジナルです。縦割り班ごとに、過去の先輩たちが考えた振り付けをアレンジします。そして、毎年九月に行われる運動会で披露してきました。どの班も最優秀賞を目ざして一生懸命練習します。全員の動きをそろえる道のりは決して平坦ではありません。

演舞の練習は、三月から始まります。卒業する三年生が、新しくリーダーとなる二年生に、使い込まれてボロボロになった一冊のノートを手渡します。「演舞ノート」です。このノートには、先輩たちの演舞に対する思いがびっしりと書き記されています。二年生はこのノートを

受けとることで、演舞の伝統や自分に与えられた使命を実感します。

四月になり、入学したての一年生と一緒に演舞練習が始まります。進級した二・三年生が振り付けはもちろん、言葉遣いやあいさつについても指導します。

ある三年生が私に、「一年生が敬語を使えん。」と不満げに訴えてきました。私は、「君たちも一年生のころは先輩たちにそう言われていたよ」と内心思いながら、「敬語の使い方を知らないだけだから、優しく教えてあげて。」と声をかけます。先輩になると伝えたいことができ、それが受け継がれていくのです。

伝統ある岬中の演舞が今年で最後を迎えてしまうのは大変残念です。すべての人の心に残るような素晴らしいパフォーマンスをさせて、有終の美を飾ろうと思います。

